

2026 年度

愛知学院大学大学院

文学研究科

英語圏文化専攻

後期一般入学試験問題

解答および解答例・出題の意図

## 博士後期課程 春季入学試験

### 一般入試 (2026年1月24日実施)

#### 【専修科目】

#### 英語圏文化研究 (I) (英語教育学研究)

##### 〈模範解答例〉

1. 言語習得において、インプット・アウトプット・インターアクションは相互に補完し合う重要な役割を果たす。クラッシュェンは、理解可能なインプットが習得の中心であるとし、学習者が意味を理解できる言語に多く触れることの重要性を指摘した。一方、スウェインはアウトプット仮説を提唱し、話す・書く活動を通して学習者が自らの言語知識の不足に気づき、表現を精緻化することが習得を促すと述べている。さらにロングは、インターアクション仮説において、他者との相互作用の中で行われる意味交渉が、インプットの理解を深め、習得を促進すると主張した。これら三つの要素が循環的に機能することで、言語習得はより効果的に進むと考えられる。

2. 英語教育におけるロール・プレイとは、学習者が特定の役割や場面を設定し、その状況に即した英語を用いてやり取りを行う活動である。例えば、店員と客、友人同士、留学生とホストファミリーなどの場面を想定し、実際のコミュニケーションに近い形で英語を使用することが特徴である。ロール・プレイでは、文法や語彙を単独で練習するのではなく、意味のある文脈の中で言語を使うため、学習者の発話意欲を高める効果がある。ロール・プレイはこのアウトプットの機会を豊富に提供し、話す力ややり取りの力、状況に応じた表現力を育成する。また、相手の発話を理解し反応する必要があるため、聞く力や実践的なコミュニケーション能力の向上にもつながる。

3. 日本の英語教育は、長年にわたり文法や読解を中心とした指導が行われてきた。私自身の学習経験を振り返ると、授業では教科書の精読や文法説明が多く、英語を実際に使って話す機会は限られていた。その結果、テストでは一定の成果を上げられても、英語で自分の考えを表現することに難しさを感じる学習者が多いのが現状である。一方で、近年は小学校英語の導入や「話す・聞く」を重視した指導が進められ、改善の動きも見られる。しかし、教員の指導体制や評価方法が十分に整っておらず、活動が形式的になりがちな点が課題である。今後は、知識としての英語と実際に使える英語を結び付け、インプットとアウトプットのバランスを意識した授業づくりを進めるとともに、教員研修や評価の改善を通して、実践的な英語運用能力の育成を図ることが求められる。

4. 私の研究計画は、第二言語習得において理解可能なインプットを基盤としつつ、アウトプット、特にロール・プレイ活動が言語習得に果たす役割を明らかにすることを目的とするものである。学習者はリスニングを通して語彙や文構造を理解した後、アウトプットの過程で自らの知識の不十分さに気づき、表現を調整することで習得を深めていくと考えられる。修士論文では、ランニング・ディクテーションを用いた授業実践により、リスニング中心のインプット活動が他の英語技能にも好影響を及ぼす可能性を示した。これを踏まえ、本研究ではディクテーション後に、学習した文や表現を用いて対話主体のロール・プレイを行う授業デザインに着目する。ロール・プレイを通して意味交渉や表現の修正がどのように生じ、インプットとアウトプットが相互に作用するのかを分析し、発話力や実践的コミュニケーション能力の育成への効果を明らかにする。これにより、アウトプットを重視した英語指導の理論的・実践的意義を提示したい。

#### 〈出題の意図〉

以下の点を試験によって明らかにする。

1. 第二言語習得論における基本的概念と言語活動について理解できているかどうか
2. 日本の英語教育の現状と課題についてどのような認識をもっているか
3. 研究計画と方法について具体的に考えているか

## 【外国語】

### 英語 I

#### 〈模範解答例〉

英文学は、語彙・文法・文化的なニュアンスに対して、本物の、文脈に富んだ学習機会を生徒に提供することにより、言語技能の向上において重要な役割を果たす。本アクションリサーチは、文学を基盤とした指導が、生徒のスピーキング、リーディング、批判的思考力、ライティングの技能をどのように向上させるかを検討するものである。学習は、中等教育段階の生徒を対象に、文学作品、双方向的なディスカッション、ライティング活動を組み合わせて実施された。

研究方法としては、事前・事後テスト、生徒アンケート、授業観察を組み合わせた混合研究方法を採用し、言語発達を測定した。データ分析の結果、語彙の定着、読解力、創造的なライティングにおいて顕著な向上が見られた。さらに、生徒は文学作品のテーマについて議論する際に、発話への自信と批判的分析力の向上を示した。

グラフによる結果は、言語能力の向上率を示し、文学が教育的手法として効果的であることを明らかにしている。本研究の知見は、英語教育に文学を統合することが、言語能力と学習への関与を高めることを示唆している。加えて、本研究は、生徒の言語学習経験を豊かにするために、多様で意義のあるテキストを重視した、より文学重視のカリキュラムの必要性を提唱するものである。

#### 〈出題の意図〉

この出題の意図は、大学院博士後期課程で英語教育を選考する候補者が、英語で書かれたリサーチ・ペーパーを読み、使われている専門用語を理解し、意味を正しくとることができるかどうかを判断することである。

#### 〈出典情報〉

Brijendra Kumar and Deep Murzello. "The Role of English Literature in Enhancing English Language Skills: An Action Research Study." *International Journal of Research in English*, 2025; 7(1): 284-288.

## 英語Ⅱ

### 〈解答例および解答例〉

英語教育は、異文化間のコミュニケーションがますます重要になっている今日のグローバル化した世界において不可欠である。英語を学ぶことは、単に文法規則や語彙を暗記することではなく、実際の場面で効果的に言語を使う能力を身につけることである。そのため、英語教育の中心的な目的はコミュニケーション能力である。学習者には、自分の考えを表現し、他者の話を聞き、意味のあるやり取りを行う機会が必要である。したがって、ディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションといった教室活動は非常に重要である。これらの活動は、英語を使う際に自信をもち、会話の流暢さを高める助けとなる。同時に、正確さも軽視してはならない。文法や発音の知識は、明確なコミュニケーションの基盤となる。さらに、動機づけも重要な要素である。学習者が英語を将来の目標に役立つ道具だと感じるとき、より積極的に学習に取り組むようになるからである。

### 〈出題の意図〉

専門的内容の英文を正確に理解できる英語力を持っているかどうかを測ること。

### 〈出典情報〉

著作物からの出典なし。